

## 人間植物関係学特論（一）（2単位）

担当者氏名 宮本 太・御影 雅幸

### ◆学習・教育目標（到達目標を記載）

人類を取り巻く環境は、日増しに悪化する一方である。特に自然環境を取り巻く状況は、二酸化炭素の排出、地球温暖化、オゾン層の破壊など我々人類の生活習慣の変化に伴って加速度的に進み、それに伴う食料や健康問題も深刻である。本科目では、自然環境をどのように捉えていくのか、また利用していくのかを考え、自然環境と人類の関わり方を再考する。また植物と人間との関係の歴史的発展過程と現代に生かすべき植物との関わりが持つ福祉機能の知識とその利用のための理論を学び、これからの人類がどのように自然環境とより良い関係を保てるかを考える。これらの講義に基づいて各自の環境への取り組み方を確立する。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

自然環境	生物多様性	自然と文化	植物共生
環境保全・保護	人間植物関係学	薬用植物	園芸学

### ◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	自然環境と人間 (1)	日本文化と植物 (正月飾りなど)	各自の研究課題について異なった側面から考え、新たな研究展開をはかる。  自然環境、生物多様性、人の生活、これらがどのように調和すればよいのか？どのような未来を作り出すことが必要なのかを各自の研究課題からテーマに沿って予習・復習しておくこと。
2	自然環境と人間 (2)	人の生活と環境 (史前帰化植物)	
3	自然環境と人間 (3)	地球環境の未来	
4	植物共生とは (1)	植物と人	
5	植物共生とは (2)	人の生活 (春の七草・秋の七草)	
6	植物共生とは (3)	自然と文化 (万葉植物)	
7	生物多様性 (1)	種とは	
8	生物多様性 (2)	地球環境と種(species)	
9	生物多様性 (3)	なぜ生物多様性は必要なのか？	
10	資源植物 (1)	人の生活	
11	資源植物 (2)	食と文化 (山菜、薬用植物、染料植物)	
12	野生生物 (1)	植物と動物	
13	野生生物 (2)	生き物の共存・共生	
14	環境保護・保全 (1)	保全とは	
15	環境保護・保全 (2)	保護とは	

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜、必要に応じて支持する

### ◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

バイオセラピー学入門（講談社）

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポートおよび発言・発表内容による評価

### ◆オフィスアワー

水曜日 12:00 から 13:00 各担当教員室にて

### ◆その他受講上の注意事項

講義は各テーマに基づいて、異なる立場に分かれて討議する形式で行う、そのため新聞などを読み、最近の環境問題と人々の取り組みなどについて常に情報を得るように心がけること。